



平成 17 年 2 月 25 日

各 位

会 社 名 株式会社アイ・オー・データ機器
代表者名 代表取締役社長 細野 昭雄
(コード番号 6916)
問合せ先 総務部部長 IR 担当 山森 光久
(TEL . 076 - 260 - 3377)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 16 年 11 月 8 日に公表した業績予想を下記のとおり修正します。

記

- 1 . 平成 17 年 6 月期連結中間業績予想数値の修正 (平成 16 年 7 月 1 日 ~ 平成 16 年 12 月 31 日)
(単位 : 百万円)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A) (平成 16 年 11 月 8 日 発表)	33,000	405	453
今 回 修 正 予 想 (B)	32,431	171	165
増 減 額 (B - A)	569	576	288
増 減 率 (%)	1.7		
(ご参考) 前期実績 (平成 15 年 12 月中間期)	34,459	920	46

- 2 . 平成 17 年 6 月期単独中間業績予想数値の修正 (平成 16 年 7 月 1 日 ~ 平成 16 年 12 月 31 日)
(単位 : 百万円)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A) (平成 16 年 11 月 8 日 発表)	32,000	415	435
今 回 修 正 予 想 (B)	31,529	130	133
増 減 額 (B - A)	471	545	302
増 減 率 (%)	1.5		
(ご参考) 前期実績 (平成 15 年 12 月中間期)	34,004	825	106

3. 平成 17 年 6 月期連結通期業績予想数値の修正 (平成 16 年 7 月 1 日 ~ 平成 17 年 6 月 30 日)
(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成 16 年 11 月 8 日 発表)	70,000	480	226
今回修正予想(B)	68,000	745	265
増減額(B-A)	2,000	265	39
増減率(%)	2.9	55.2	17.3
(ご参考) 前期実績(平成 16 年 6 月期)	72,870	1,565	749

4. 平成 17 年 6 月期単独通期業績予想数値の修正 (平成 16 年 7 月 1 日 ~ 平成 17 年 6 月 30 日)
(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成 16 年 11 月 8 日 発表)	67,100	420	210
今回修正予想(B)	65,900	680	260
増減額(B-A)	1,200	260	50
増減率(%)	1.8	61.9	23.8
(ご参考) 前期実績(平成 16 年 6 月期)	71,416	1,347	650

5. 修正の理由

当中間期におけるわが国経済は、輸出関連及び情報・デジタル家電の製造業を中心とした企業収益の改善、民間を主とした設備投資の盛り上がり等で、緩やかではありますが順調に回復の兆しを示してきました。一方で原油価格や素材価格の高止まりが見られ、世界経済の牽引役をしてきた米国・中国経済においても景気動向にやや懸念がでてきたこともあり、景気の先行きに対する減速感も出てきております。

当社を取り巻くパソコン業界におきましては、期首よりオリンピックの開催、猛暑の影響で夏場は薄型テレビやエアコンに消費が集中し、秋口以降も度重なる台風の被害による客足の落ち込みが販売に影響を与えました。年末商戦期には回復したものの、期全般を通して厳しいビジネス環境下で推移いたしました。

このような環境下におきまして、当企業グループは個人向けを中心としたパソコンの売上動向の停滞に影響され業績低迷を余儀なくされました。期後半からはハードディスク、DVD等ストレージ製品全般の価格競争力の強化、市場拡大を続ける液晶製品の収益性の改善、高付加価値製品のネットワークメディアプレーヤーを中心としたAVeL製品の営業拡充に努めました。しかしながらDVD関連製品、USBフラッシュメモリ等の市場競争もさる事ながら、製品価格の市場下落が激しく、売上高、利益に大きく影響を与えました。この結果、当中間期の売上高は324億31百万円(前年同期比5.9%減)、営業利益は1億60百万円(前年同期比82.7%減)、経常利益は1億71百万円(前年同期比81.4%減)、純損失は1億65百万円(前年同期は46百万円の純損失)となりました。純利益が損失にいたった主たる原因は3年前の円安状況時において、当社の部材調達の輸入比率が年々増加傾向にあることからドル建ての輸入取引をヘッジすることを目的として導入した長期の為替予約において、予約後の円高進行による評価損が3億18百万円発生したためであります。

なお、当社が平成16年11月8日に発表しました業績修正の予想と比較して上方に修正した理由は、修正当初時点の各製品別の粗利予想において期前半不振を極めたSDカードやUSBフラッシュ等の製品が当初予想より急回復したためであります。また通期の見通しにつきましても、中間期の売上及び利益の着地点を鑑みて、売上高で当初予想より20億減の680億円、経常利益は当初予想より2億65百万円増の7億45百万円、純利益は当初予想より39百万円増の2億65百万円に修正いたします。

なお、単独の業績につきましては本資料をご参照願います。

以 上

(注) なお、この資料に記載されております業績等の予想数字につきましては、現時点で得られた情報に基づいて算定しておりますが、多分に不確定な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等は状況の変化により、この資料に記載されている予想とは異なる場合があることをご承知おき下さい。